

はじめよう

2003年に創刊号を発行し、今年度20号を迎えました。

情報紙名には「女だから、男だからでは無い、ひとりの人として、自分を見つけ、社会を見つめ、ゆめを追いかける明日を、さあ、はじめよう。」という意味が込められています。

創刊号では、男女共同参画社会に向けて「男女平等の定着」「あらゆる分野に男女共同参画」「家庭も仕事も男女が協力」「女性のエンパワーメント」が必要だと考えました。それらを引き継ぎ、様々なテーマを取り上げてきました。

今年度のテーマは「女性議員が少ないことについてどう考えているか」

日本の国会議員に占める女性の割合は、13.7%、世界では50%を超える国もあります。男女人口比ではほぼ半々、しかし、政策等を決定する議会に1割・2割程しか女性がいない現実、このままでいいのでしょうか。北欧や、今では多くの国で導入されている「クオータ制」は、女性たちがあげた、多くの声から始まったことです。国民が意識を持ち、考え行動しなければ変わっていかないのではないでしょうか。

2018年5月に「政治分野における男女共同参画推進法」が成立しました。政治の場にもっと女性の意見を反映させて行くべきとの考えからできたものですが、共同通信社のアンケートでは、県と県内35市町村の議長の36%が「効果が乏しい」という見方をしていました。



子供議会の様子 将来の女性議員は？

群馬県内の市では、「女性ゼロ議会」は富岡市のみとなっています。今までゼロであった館林市は、2017年の補選で1人入り、昨年の市議選では、女性たちの結束により2人当選しました。

しかし、県内の町村議会では「女性ゼロ議会」はまだ多いようです。女性議員1人の「紅1点議会」も県内には10市町村あり、桐生市もその1つです。女性が0人や1人の議会で、女性に関する問題や施策に目が向くでしょうか。

榛東村議会では、2017年に議長に30代の女性が就任し、その後、結婚、妊娠、出産をしています。

女性議員が1人の榛東村議会で、規則の改正を行い、議会欠席理由に「育児」「介護」「疾病」「看護」などの文言を加え、産休期間も明示しました。議会で頑張る、このような女性が現れたことで、環境や制度が整いつつあります。

女性議員が増えていくことを大いに期待します。

群馬県内市議会女性議員比率 2018/10/1 現在				
	群馬県内	議員数	女性議員数	女性議員比率
1	みどり市	19	4	21.0%
2	伊勢崎市	30	6	20.0%
3	太田市	30	5	16.7%
4	前橋市	38	6	15.8%
5	藤岡市	20	3	15.0%
6	安中市	22	3	13.6%
7	館林市	18	2	11.1%
8	渋川市	22	2	9.0%
9	高崎市	38	2	5.2%
10	沼田市	20	1	5.0%
11	桐生市	22	1	4.5%
12	富岡市	18	0	0%

女性市議が少ないことについて、桐生市民はどう考えているか？

《 3つの質問について、各年代の市民に聞きました 》

法律ができたことをどう思いますか？ そのことでどう変わるとおもいますか？

- ・ 男性中心の議会に女性の意見が反映されるようになっていい。大いに期待している。
(20代男性・50代女性)
- ・ 強制力がない法律なので、すぐには増えないと思うが、この法が後押しになり、都市部では変わって行くと思う。女性のカリスマも必要かな。
(60代男性)
- ・ 遅かったくらいだが良かった。しかしどこまでできるかが疑問。
(60代男性)
- ・ 女性議員増法って、2015年に企業向けに女性活躍推進法を成立させたので、議会でも女性に活躍してほしいという政府のポーズじゃないの。だって、今回の組閣に女性大臣はたった1人じゃないですか。
(10代男性)
- ・ 遅すぎるが、女性参政権が実施されてから今があるようにこれからも進化してほしい。
(60代女性)

桐生市議に女性が1人しかいない現実を どう思いますか？

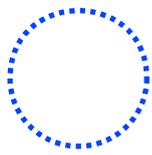
- ・ 市議会そのものが偏るので、女性議員を増やした方がいい。
(20代男性・50代女性)
- ・ 1人だと発言力、存在感が薄く思われるので、議員数の25%くらいまで増やす必要がある。
(60代男性複数)
- ・ 男性が考えを変えないと、女性は家にいればいいと思っている男性が多いから。
(80代女性)
- ・ 市政などにあまり興味を持ってないが、当然もったいた方がいいと思います。各委員会に1人はいた方がいいですね。
(50代女性)
- ・ 一般の人は、議員といたら男性と思うのか、女性が立候補するような体制になっていないのか、まだまだ女性にはハードルが高い。
(60代女性)
- ・ 家事も育児もしない人や専業で議員をしている人には、一般的にフルタイムで仕事をしている女性のことは理解できないと思う。そのような経験をしている女性が議員になれば変わって行くと思う。
(50代女性)

- ・ 女性議員を増やして男女共同参画の理念に近づけるため、1人では少ない。
(40代女性)
- ・ 群大の理工学部で過半数が女子学生になった科がある時代なのに、女性議員が1人ですか。社会に出るとまだまだ男社会で苦勞するのかな。
(20代女性)

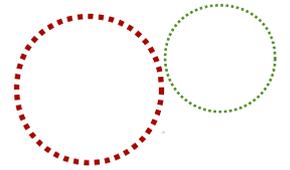


どのような環境整備がなされれば、 女性議員が増えると思いますか？

- ・ 政経塾のようなところで、議員に立候補する人材を育てる必要があるのではないのでしょうか。そしてそれなりの市民活動の経験から、どんなことを実現して行きたいかの構想が持てるようになれば立候補しようと考えられるのでは。ともかく、その人を応援しようとする核となる仲間を作ることも必要。それができる人、居るかな。
(50代女性)
- ・ 女性が会議に出やすい応援体制(会議中の託児等)が必要。時間帯のセッティングも大事。
(20代女性・40代女性・50代女性)
- ・ 女性といっても、多様な考え方の人がいることを理解した上での、環境整備が必要だと思う。議会に託児の施設をなどという話もあるが、小さい時は一緒にいたいという人には育児休暇が必要になると思います。市民もそうですが、多様な人を認めることが大事です。
(50代女性)
- ・ 家事や育児も含めて家庭の理解と協力が必要だと思う。
(80代女性・60代女性・40代女性・30代女性・60代男性)
- ・ 現状の打開策で、桐生市内の自治会長の半分を女性にする方向を目指す必要がある。
(60代男性)
- ・ 議会の中や、議員同士でも偏見がなく、意見を言ったり聞いたりする体制になっていないと、入っていけないと思う。男性・女性の立場が平等であることが望まれる。
(50代女性)



女性市議会議員の多い伊勢崎市の 3人の女性市議に聞きました



伊勢崎市は人口21万人を超えており、高齢化率は24.2%です。これは全国平均より3.5ポイント低く、桐生市よりも10.1ポイント低い数値です。伊勢崎市の市議会議員は30人、そのうち女性は6人です。今回話を聞いたのは、そのうち3人の女性市議の皆さんです。

堀地 和子 議員(62歳)

堀地和子さんは、文化・福祉・環境問題に取り組むたくて市議になることを決心しました。5期16年活動が続けるベテラン議員です。



高齢者施設で仲間とオムツたみのボランティアをしている堀地さん(右端)

「女性議員になら男性議員に言えないことも言いやすい。女性の代表としてお願いします。」この言葉をきっかけに、男女共同参画に、政策や女性の社会進出に政治的立場から関心を持つようになりました。少子高齢化社会は、まさに女性自身が当事者なのです。誰も当事者意識を持つことが大事です。

伊勢崎市は、地域性のある町村との合併により、それぞれの文化が混ざり合い、その上、外国人の数においても県内で一番多く1万2千人を超えています。そんな中、先を見据えて、未来のビジョンを考えて行くことが必要と感じています。

小暮 笑鯉子 議員(42歳)

小暮笑鯉子さんは、市議をしていた父親から「子供たちのために、今だから行け」と4人目の乳飲み子を抱え、子育てをしている時に言われました。子供を育てている中で感じる疑問やママ友の意見を大事に議会に臨み2期目です。



視察もかね食改推の親子料理教室に参加している小暮さん(中央)

私は、子供たちが食べている給食が気になりました。合併後の伊勢崎市には6つの給食センターがあり、同じ献立でも食材の選択等に違いがありました。地元の旧東村では地場産の野菜など多く使っています。安全で美味しい給食をすべての子供たちに提供したいとの思いから、議会で一般質問をしたところ改善されてきました。

母親目線・女性目線から、気になることに注目し、それらの声を代弁しています。

公設の放課後児童クラブにおいて、女性議員で話しやすいからと相談され、全教室にクーラーを付けることができました。



栗原 まや 議員(34歳)

栗原まやさんは、3人の子供の母親です。地元出身ではないので、友だちを作りたくて子育てのグループを作りました。企業や多くの人に声をかけ「ぐんまワクワクフェスティバル」をグリーンドームで開催し3千人も集めるなどとパワフルな方です。仲間に押され議員になり、現在2期目です。



保育園児の作品を見る栗原さん

イベントでゆるキャラと一緒に

何も知らない主婦だから・・・この感覚を大事にしつつ、日々勉強しています。

子育てをしながら楽しく議員活動をしている姿を見せること、議員として子供を産むことは、今の私には出来ないと思っています。そこで、少子化問題、子育て政策に取り組んでいきます。

若い人たちの応援が多く、私が立候補したことで、普段投票に行ったことがない人が行くようになりました。その人たちの声を聞き、女性が働きやすい環境や政治に縁のない人でも進出できる環境づくりをしていくことを活動のひとつにしています。

今春、私の4人目の出産に伴い、議会で産休の件が議題にあがり、3月に規定を定めることになりました。これは今後の女性議員のためにも大変重要なことだと考えています。

＜ 3人の議員の話の中から 見えてきたこと… ＞

- ・政治に良いイメージがない、興味がない。
- ・まだまだ夫や子供の世話は女性がするものと考えられる人が多く、活動等に、他者の協力が必要となる。
- ・政治などを学ぶ機会が少ない

このような状況の中、今回お話を伺った皆さんは工夫しながらそれぞれに取り組んでいます。

☆堀地さんは、政治について、市川房枝政治参画フォーラムで学び、自己研鑽し議会改革と市民生活の真の豊かさを目指しています。

☆小暮さんは、父親に背中を押されただけに、両親の理解と協力があります。子育てや日頃の生活の疑問について声を上げることで、市が変わり、生活が変わることを身を以て示しています。

☆政治に興味がなかった栗原さんは、ママ友たちの強力な応援で市議になることが出来ました。普通の主婦感覚を大事にしています。みんなに政治の楽しさを伝え、少しでも興味をもってもらえるよう活動しています。

それぞれの市議の周りには、小さなことでも問題意識を持って考える仲間がいます。そして、若い人の背中を押してあげることや、政治や社会のことを学ぶ機会を作っていくことが必要だと考え、行動しています。普段投票に行かない人が行くようになったことはすごいことです。それらのことが次に繋がっていくことになるでしょう。これらが、桐生市にも参考になればと考えます。

今回のテーマは男女共同参画推進を目指す上で一番越えなければならぬ問題の一つだと考えます。そこで市民の方や、伊勢崎市の女性市議の方、元議員の方に現実はどうか、どうしたら良いのかをお聞きました。参考とすべき貴重なご意見をありがとうございました。

編集委員長 武井由紀子

編集委員 深沢秀子

男性元議員に聞いてみました。

40代男性元議員・・・A 70代男性元議員・・・B
質問者・・・T

T: 女性議員が少ないことについてどう思いますか。

A: 選挙に、女性が出づらい風土がありますね。

B: 女性は無理しないで自然でいい。子供を産むことは本能だと思う。そして、家で子育てに勤しむべきだと思う。男性は左脳で、女性は右脳で考えると言うように、機能も能力も違うのだから、今のままでいい。

T: これが年配男性の本音ですね。まさにそれが、出づらい風土じゃないですか。

A: そんな風土の中で、風圧を突き抜けて行くような人、パイオニアが必要になる。政治へ進出する女性は、そこへ飛び込む勇気があるといい。そして、気持ちも目的も同じところを目指し、応援してくれる人が何人かいれば、なんとかなります。

T: 飛び込む勇気とは？

A: 世論を引っ張って行く先駆者になるには、池に石を投げて、波紋が起るように、あなたが言葉に出すこと、一步を踏み出すことが大きな波紋となるのです。

T: すぐ議員になるとかではなく、池に石を投げ入れることから始めるのですね。



～図書館には、男女共同参画に関する本がありますよ～

編集後記

伊勢崎市の女性市議へのインタビューは大変考えさせられるものでした。若い市議を年上の市議が支える。若い市議は仲間と楽しく選挙も活動もやっていく。時代は変わると実感しました。

編集委員 金子真知子

議会における重要な職責は男性議員が多いとの現状を県内の他の女性議員からも伺い、議会改革の必要性を改めて感じました。

編集委員 武井克夫